

-----  
[ 成果情報名 ] オンシジウム「流れ星」の3～4月出し栽培技術

[ 要約 ] オンシジウム「流れ星」の鉢物生産では、8月上旬に花茎を切除し、8月下旬から長日処理（16時間日長）を開始し、11月上旬から夜間最低気温10～12.5 で加温することで3～4月に出荷できる。また、長日処理により、開花株率は高くなり、花茎長は長く、小花数は多くなり品質が向上する。

[ キーワード ] オンシジウム、鉢物、長日処理、夜間最低気温、品質向上

[ 担当部署 ] 花き部・花き栽培チーム

[ 連絡先 ] 092-922-4958

[ 対象作物 ] 花き・花木

[ 専門項目 ] 栽培

[ 成果分類 ] 新技術  
-----

[ 背景・ねらい ]

オンシジウムの鉢物生産では7～12月に年間出荷量の約80%が生産されている。一方、需要の多い3～4月の出荷量は少ない。この時期の安定出荷技術の確立は、生産上および経営上の大きな課題である。オンシジウムを春季に出荷するためには、リードバルブを前年の夏に発生、充実させた後、花茎を12月頃に発生させる必要がある。しかし、この時期は花茎ではなく、再びリードバルブが着生する確率が高く、安定して開花させるための栽培管理技術は確立されていない。

そこで、花茎を切除することによりリードバルブを夏に発生させ、充実させるための長日処理や夜間最低気温について検討し、3～4月出し栽培技術を確立する。

(要望機関名:生産流通課(H16))

[ 成果の内容・特徴 ]

- 1．オンシジウム「流れ星」では、花茎を切除後、約3週間後にはリードバルブが100%発生する(表1)。
- 2．長日処理(16時間日長)により、リードバルブの葉面積が増加し、バルブが充実するとともに、開花株率は高くなり、花茎長は長く、小花数は多くなる。また、3～4月に揃って開花する(表1、図1)。
- 3．長日条件下では、夜間の最低気温が低いほど小花数が増加する(表1)。
- 4．3～4月に出荷するには、8月上旬に花茎を切除し、8月下旬より長日処理(16時間日長)を開始し、11月上旬から夜間最低気温10～12.5 で加温するとよい(図2)。

[ 成果の活用面・留意点 ]

- 1．オンシジウム「流れ星」の3～4月出し栽培技術として活用できる。

[ 具体的データ ]

表1 夜間最低気温および長日処理とオンシジウム『流れ星』の生育・開花 (平成17年)

夜間最低気温	日長処理	リードバルブの	リードバルブの	リードバルブの	花茎発生時期	平均開花日	開花株率	花茎長	小花数
		発生時期	発生株率	葉面積					
		月/日	%	cm <sup>2</sup>	月/日	月/日	%	cm	個
10	自然日長	8/21	100	217	11/26	2/27	78	56	68
	16時間日長	8/23	100	287	12/8	4/2	100	71	142
12.5	自然日長	8/23	100	187	12/2	2/24	90	60	76
	16時間日長	8/22	100	321	12/12	4/1	100	69	120
15	自然日長	8/23	100	211	11/19	2/6	89	55	71
	16時間日長	8/23	100	302	12/7	3/8	100	71	93

注)1.2005年8月2日に花茎を基部より切除し、8月23日より長日処理開始。温度処理は11月4日より開始。  
 2.16時間日長は日の入前から20:00までと4:00から日の出後までを白熱球で電照した。  
 3.開花日は最初の小花が展開した日。

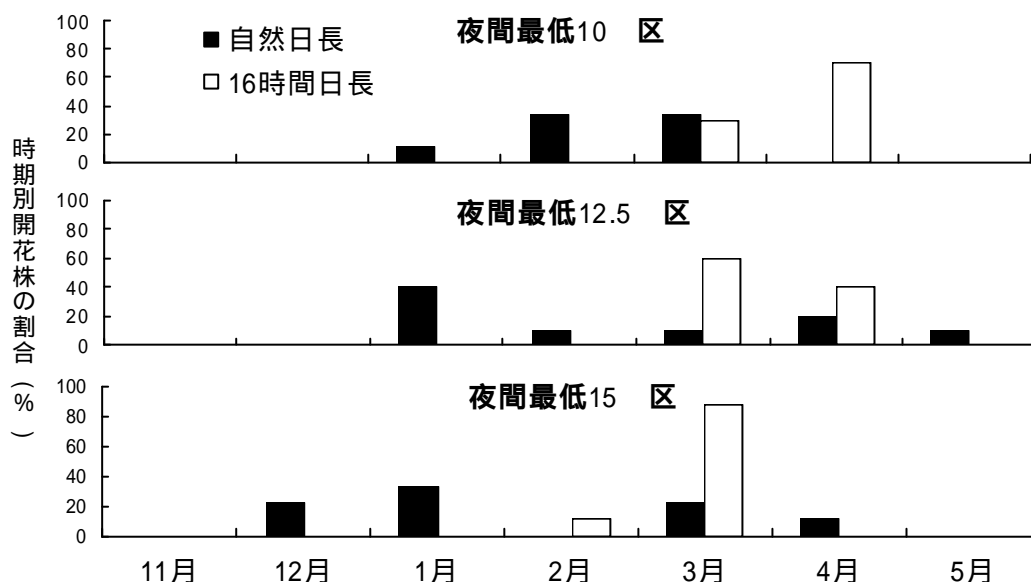


図1 夜間最低気温および長日処理と時期別開花株の割合 (平成17年)  
 注) 耕種概要は表1と同じ。

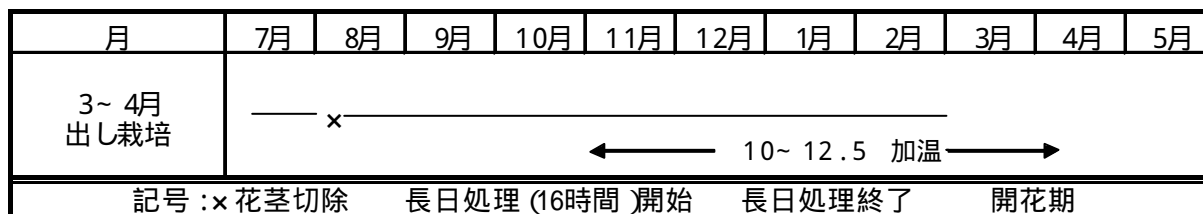


図2 オンシジウム『流れ星』の3~4月出し栽培の作型

[ その他 ]

研究課題名: オンシジウムの3~5月出し栽培技術  
 予算区分: 経常  
 研究期間: 平成17年度(平成16~17年)  
 研究担当者: 國武利浩、松野孝敏